

発明学会では、多業種にわたる企業が多数協賛し、発明商品の実用化を強力に支援する「身近なヒント発明展」を開催しています。

毎年10月には、一次審査を通過した約100点の作品が発明学会ビルの会場に展示され、企業による審査投票と一般来場者の投票をもとに「発明学会大賞」が選ばれます。

今回、「発明学会大賞」に輝いたのは、大阪府在住の片岡篤志さんの『ばねちよき』です。この発明は、子供が安全に使えるハサミを目指して開発されました。発明のきっかけは、片岡さんが家族で外食した帰りの車内での会話でした。当時2歳の娘さんがハサミを使おうとしたことから、子供が安全に使用できるハサミの開発を模索し始めました。この時期の子供は手先が器用になり、大人が使うハサミに興味を持ちやすいため、安全性が求められます。

●着想から試作品完成までの期間：1日

この発明のポイントは、以下の2点にあります。

1. ブレード部分の構造



ブレードはU字型をしており、一端は持ち手に繋がり、もう一方は開放されています。そのため、強い力がかかるとブレードがたわみ、万が一指を挟んでも切れない構造になっています。

2. ハサミが常に閉じた状態になる仕組み

支点部分に押しバネを設けることで、ハサミが常に閉じた状態を保ちます。使用者がハサミを開くには、指穴に正しく指を通し、しっかり広げる必要があります。市販の幼児用ハサミの多くは開いた状態が維持されるため、指穴の外側を握るだけでも切れてしまい、正しい使い方を身につけにくいという課題がありました。『ばねちよき』は、使用後に開いたまま放置されることがなく、安全性が高い設計になっています。

片岡さんは、発明の着想について「車内で妻と話し始めてすぐに基本構造が思い浮かびました。そして、帰宅後に明け方4時までCADでモデルを作成し、それを3Dプリンターで試作品第1号として完成させました。わずか1日で基本構造が完



成したことに自分でも驚きました」と振り返ります。その後、改良を重ね、現在の形に至りました。

片岡さんは、前職で自動車の研究開発に携わり、多様な技術に関わってきました。発明はゼロから生まれるのではなく、既存の要素を新しい組み合わせで生み出されることが多いと考えています。この経験が『ばねちよき』の発明につながったようです。

●今後の展開

現在の『ばねちよき』は、初めてハサミに触れる幼児向けとしており、特に紙を切ることで子供の自立心や創作力を育むことを目的としています。今後は、大人向けの『ばねちよき』の開発も検討しており、ブレード部分をステンレス鋼にし、持ち手をプラスチック樹脂で作成することで、障害を持つ方や認知症の方でも安全に使用できるハサミを目指しています。

現在、片岡さんは3Dプリンターで製作した『ばねちよき』の販売準備を進めると同時に、企業でのアイデア採用も模索しています。発明学会も、この取り組みを支援していきます。

◆「身近なヒント発明展」のお知らせ

毎年7月10日が締め切りの「身近なヒント発明展」では、どなたでもご参加いただけます。あなたのアイデアを企業に審査してもらい、商品化を目指しませんか？ぜひチャレンジしてみてください！



一般社団法人発明学会

発明・アイデアに関するご相談、ご質問がある方は、(一社)発明学会迄お問い合わせください。

毎週火、木、土曜日午後、無料相談を行っています。

問合せ先 (一社)発明学会YH係 〒162-0055 東京都新宿区余丁町7-1

TEL 03-5366-8811(代) <http://www.hatsumei.or.jp>

四谷・牛込あの日、あそこで 第4回

大胡勝行、家名を牛込氏に改める

天文24（1555）年 牛込城（袋町）

新宿区は1947年に四谷区、牛込区、淀橋区が合併し発足しました。牛込の名前は古くに牛の牧場があり、牛が多かったことから、「牛」が「込」（多く集まる）に由来するとされています。現在の牛込・市谷・戸山一帯を含む牛込台地の地が牛込郷と呼ばれていて、牛込城を拠点とする牛込氏を名乗る領主がいました。

神楽坂通りから地藏坂を新宿区袋町へ上がっていくと、増上寺の末寺で樹王山正覚院光照寺という浄土宗の寺院があります。ここは牛込城の跡地で、正保2（1645）年に神田から移転してきました。

光照寺の入口にあった新宿区教育委員会の新宿区登録史跡牛込城跡の案内板によると、牛込城と牛込氏については、次の様に記されています。

「光照寺一帯は、戦国時代この地域の領主であった牛込氏の居城があったところである。堀や城門、城館など城内の構造については記録がなく詳細は不明であるが、住居を主体とした館であったと推定される。」

牛込氏は赤城山の麓上野国（群馬県）勢多郡大胡の領主大胡氏を祖とする。天文年間（1532～55年）に当主大胡重行が南関東に移り、北条氏の家臣となった。天文24（1555）年重行の子の勝行は姓を牛込氏と改め、赤坂、桜田、日比谷付近も含めて領有したが、天正18（1590）年、北条氏滅亡後は徳川家康に従い牛込城は取り壊される。」

徳川家康に従った後、牛込俊重は徳川忠長に配属され目付を務めていましたが、寛永10（1633）年の忠長改易により仕官先を失いました。寛永13（1636）年に赦免され

500石の旗本となりましたが、次の勝正のとき無嗣断絶で改易されました。勝正の弟・重恭は分家しこの系統が旗本として幕末まで続きました。

牛込城のあった神楽坂周辺には、牛込氏所縁の寺社があります。

東京メトロ神楽坂駅近くの赤城神社は、ホームページのよると、その由緒を「伝承によれば、正安2（1300）年、後伏見天皇の御代に、群馬県赤城山麓の大胡の豪族であった大胡彦太郎重治が牛込に移住した時、本国の鎮守であった赤城神社の御分霊をお祀りしたのが始まりと伝えられています。その後、牛込早稲田の田島村（今の早稲田鶴巻町 元赤城神社の所在地）に鎮座していたお社を寛正元（1460）年に太田道灌が神威を尊んで、牛込台（今の牛込見付附近）に遷し、さらに弘治元（1555）年に、大胡宮内少輔（牛込氏）が現在の場所に遷したといわれています。この牛込氏は、大胡氏の後裔にあたります。」

としています。

また、新宿区弁天町にある曹洞宗の宗参寺は、天文12（1543）年に没した牛込重行（法号・宗参）の墓所を、息子の牛込勝行が造ったことに始まり、同寺内には牛込氏累代の墓があり、東京都史跡（1924年指定）となっています。



光照寺



写真左、元赤城神社、右上、光照寺周辺（地藏坂）、右下、宗参寺



赤城神社

新宿の郷土史家たち

令和7年度新宿歴史博物館所蔵資料展

2025年
4/26(土)
～6/29(日)

local Historians in Shinjuku

- 会 場：新宿歴史博物館 地下1階企画展示室
- 開館時間：午前9時30分～午後5時30分(入館は午後5時まで)
- 休 館 日：4月28日、5月12日・26日 6月9日・23日(いずれも月曜日)
- 観 覧 料：無料
- 主 催：公益財団法人新宿未来創造財団 新宿区立新宿歴史博物館

新宿区四谷三栄町 12-16 Tel.03-3359-2131/Fax.03-3359-5036 <https://www.regasu-shinjuku.or.jp/rekihaku/>